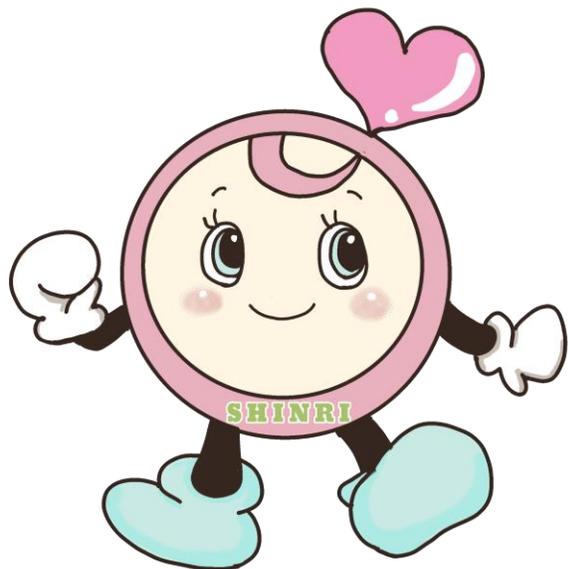


話してくれた方



氏名： M.S. さん

学年： 4年生

社会・臨床心理学専攻を選んだ決め手

高校在学中から人の感情や心の動きに関して興味があり、自分の興味関心を満たす心理学を学びたいと考えていました。大妻女子の社会・臨床心理学専攻を志した理由としては、大学進学前はまだ心理学の領域に関して知識が乏しかった為、社会心理学と臨床心理学の双方を学べるここを選べば、熱中して研究できるテーマに出会えるかも知れないと感じたからです。

今、どのようなことを学んでいますか？

現在は自分の興味がある社会心理学を中心に、将来取得したいと考えている公認心理師の対応カリキュラムを受講しています。

三年次は、一・二年次の心理学の枠組みを学ぶ段階からレベルアップして、様々な心理学の枠組みのひとつひとつを丁寧に学ぶ事が出来た印象です。

社会・臨床心理学専攻のおすすめの授業は何ですか？

「心理的アセスメント」という講義です。名前の通り、心理領域における多種多様なアセスメント方法を学ぶ講義で、実際のカウンセリング現場で用いられている検査法やカウンセリング法を体験的に学ぶことができます。将来カウンセラーを目指している方に特にお勧めしたい講義のひとつです。

あなたが感じる社会・臨床心理学専攻の特徴は？

学科所属の先生方が私たち学生に寄り添って
ご指導下さる所がとても魅力的だと思います。
基本的に必修の講義で必ず学科の先生方全員と
ご一緒する機会があるので、
自分のゼミの担当教員以外の先生にも
気軽に相談や出来る存在があり、
とても学びやすい環境だと思います。

将来の夢や今後の目標

卒業後は大学院に進学し、
将来的に公認心理師・臨床心理士の資格を取得したいと
考えています。

取得後の方針に関してはまだ不確かではあるのですが、
どんな領域であっても大妻で学んだ心理学を活かして、
人の人生を明るくする仕事に就けたら良いなと思っています。

受験生の皆さんへ

心理学は社会で生活する上で、大切な学問だと思います。
私自身、この学科で心理学を学んだ事で社会生活が
少し円滑になったと感じています。
将来カウンセラーなどの心理職を目指している方は勿論、
まだ進路に迷っている方にも、
本専攻での学びは必ず生きる糧になると思います。
受験生の皆さんと一緒に、社会・臨床心理学専攻で
一緒に学べる事を楽しみにしております。

話してくれた方



氏名： M.T.さん

学年： 2年生

社会・臨床心理学専攻を選んだ決め手

この専攻を選んだ決め手は、

「公認心理師資格を取れるカリキュラムがある事」です。

私は中学二年生の時にカウンセリングを受けた事がきっかけで、

いじめや不登校、カウンセリングなどに興味を持ち、

心理学について調べ始めました。それまで、カウンセリングは

心に病を抱えている人が受けるものであり、

ちょっと学校に行きたくないぐらいでは受けてはいけない、

甘えてはいけないと思っていましたが、実際に受けてみると、

誰にも言えない悩みや愚痴を言える場所なのだと感じたのです。

現代日本では、私のように、カウンセリングは少し近寄りがたいと

感じている方が多い世の中だと思います。そこで私は、専門家として相談相手に

カウンセリングという一つの選択肢が挙げられるような

世の中に変えて行きたいと考えました。

専門家になるには公認心理師、臨床心理士の資格を取ることが必要であるため、

資格を取るカリキュラムがある社会・臨床心理学専攻を選びました。

今、どのようなことを学んでいますか？

現在は人間の行動について考える行動心理学や記憶・知覚について考える認知心理学、実験の種類・方法、実験結果を分析する為の統計などを学んでいます。

一般的なイメージとして、心理学は人の心という見えない物を扱うので、学問としてどのように科学的な結果を出すのか疑問を持たれると思いますが、ただ人を観察するだけではなく、生理的反応や客観的に分析できるものを扱う学問として学んでいます。例えば、人がこれ以上近づいて欲しくないパーソナルスペースを測る実験では、相手の目を見て近づく時と、目を見ないで近づく時とで条件別に距離を測り、その差を比べて分析したりしています。

社会・臨床心理学専攻のおすすめの授業は何ですか？

1年生の前期必修授業の「社会・臨床心理学基礎セミナー」通称「基礎ゼミ」です。この授業は様々な単元をグループワークで学習し、中でもカウンセリングについての学習では、基礎となる「傾聴」の大切さ、難しさについて実際に体感して学ぶことができます。

「傾聴」とは心で受け止め、相手を分かろうとする、相談援助の基本であり、これを重要視することでクライアント(カウンセリングを受ける人)の話しやすい環境を作り、心を開いて多くの事を話してもらうことができます。グループワークは、カウンセラー(Co)、クライアント(CI)に分かれ、用意された台本を読みます。「傾聴」を重視していない台本はCIに対して自分の意見を言いすぎたり、話を遮ったりする場面が多く、CIが話しやすい環境を作ることができていませんでした。

逆に「傾聴」を重要視した台本はCo主に相槌をし、CIの話に割り込まず、CIが話しやすい環境を作ることができていました。

カウンセリングについての認識が変わる貴重な機会だと思しますので、ぜひ受けてみてください。

あなたが感じる社会・臨床心理学専攻の特徴は？

社会・臨床心理学専攻の特徴は一年次から実験の実施・参加、その後のレポートを作成する機会が多い事にあると思います。

おすすめの授業にも挙げました「基礎ゼミ」では、最後に「大妻夏祭り」という授業があり、これは二年生の実験に一年生が参加するというものでした。

そして、そこで体験したものは、翌年自分たちが後輩に向けて実験し、受け継がれていきます。

また、一年後期には、「心理学研究法基礎」という必修授業で三つの実験を行い、レポート課題を行います。このように、実験の実施・参加、それに伴いレポートも作成する機会が多いことが特徴だと思います。

一年次から触れる機会が多いことで、四年次の「卒業論文」に強くなると思います。

将来の夢や今後の目標

今後の目標は大学・大学院修士を出て、公認心理師・臨床心理士の資格を取ることです。将来の夢は初めにカウンセラーを志した中学二年生の時から二転三転しています。初めは資格を取った後に現場で働いて自分と同じように悩んでいる人の直接的な助けになりたいと思っていました。その後、やはり国を変えるしかないと思って心理士の資格を持った政治家になろうとも思いました。紆余曲折あった結果、現在は大学の教授になって心理士の教育をしていきたいと考えています。これはとあるアニメキャラクターの受け売りですが、「強く、聡い仲間を育てること」これこそが自分の意思を後世に伝えるための最強の手段だと思っています。

受験生の皆さんへ

皆さんは心理学に明確な目的を持っている、ちょっと興味があるなど、他にも様々な理由で受験を考えていることと思います。明確な目的のある人は、そのまま自分の信念を貫き、受験に臨んでください。大学は、今まで生きてきた中で興味を持った事を専門的な視野から答え合わせをする場ですので、入学した暁には、皆さんが望んだ答えがあると思います。一方で、まだ何がしたいか明確な目的が決まっていなくても大丈夫です。自分で言うのもなんですが、ある程度目標があって入学したつもりでも、大学で学ぶ間に視野が広がり、目的が二転三転しています。義務教育では習わない心理学に触れてみることで、新しい発見があるかもしれません。少しでも興味があれば、ぜひ受験を視野に入れてみてください。皆さんのご入学を待っています。